



道守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.44 春号

巻頭インタビュー

「道守20年、みちづくしin竹田を、飛躍の場に」
土居 昌弘 (竹田市長)

みちづくし in 阿蘇 2022 実施報告

九州各県の道守が3年ぶりに大集結！

九州風景街道の令和4年度の取り組み
5つのチャレンジ

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄りも、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなどは整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組み人々が増えていく。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。さあ、新しい道に一步踏み出そう。



海の中道海浜公園（福岡市東区）

CONTENTS

- 01 巻頭インタビュー 「道守20年、みちづくし in 竹田を、飛躍の場に」 土居 昌弘（竹田市長）
- 03 みちづくし in 阿蘇 2022 実施報告 九州各県の道守が3年ぶりに大集結！
- 06 わたしの好きな道 宮崎県立阿波岐原森林公園パークウェイ 中島 隆志
- 07 私たちの道守活動
- 道路部の施策
- 10 2040年、道路の景色が変わる
- 11 歩行者利便増進道路(ほこみち)制度について
- 12 九州風景街道の令和4年度の取り組み 5つのチャレンジ
- 15 海外道事情 ロサンゼルス 合理的に、柔軟に——道路交通ルールの違いから学ぶ 仲谷 俊昭
- 16 道守人物伝
- 17 道守たちのトピックス

表紙画：久富 正美 1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭 インタビュー MASAHIRO DOI 土居昌弘

竹田市長

「道守20年、みちづくし in 竹田を、飛躍の場に」

道守九州会議は、今年発足して20年目。この秋、竹田市でみちづくし大会が開かれます。「道はみんなの財産」という思いで大分はこの道守さんたちの道路活動や花壇づくり、そしてマイツリー活動、また竹田市でも熱心に行っている子どもたちの啓発活動など道守活動を活発に展開してきましたが、この活動について市長はどのように評価されていますか？

土居市長 まず、道守活動をされている皆さんには心から感謝申し上げます。竹田市では、昭和56（1981）年から小学生の児童とともに国道57号の清掃活動「ゴミゼロ運動」をしていただいています。第19回「環境美化教育優良校等表彰」で全国の小中学校の中から、優秀賞に選ばれた学校です。これも道守の皆さんがご指導くださり、そして一緒に頑張ってゴミを拾っていたのだ

ているからこそ取れた賞だと思っています。 菅生小学校も令和6年度に統合になる予定です。しかし、道守の皆さんが長い間児童たちと続けてこられたこの活動を地域事業の一つとして、また引き続き菅生地区の児童とともにできたらいいなと思っています。 今回ホストとなるみちづくしへの思いをお聞かせください。

土居市長 県庁所在地でない竹田市での開催を選んでいただき、本当に感謝しています。今、竹田市は中九州横断道路の事業を進捗しているところですが、まだ竹田にきたことがない方も含めたくさんの方にこの道路を利用して来ていただき、竹田が元氣なことも見ていただきたいと思います。小さな町だからこそできる細心のおもてなしができると思います。その辺を道守の皆さんとともに考えながら企画をしていきたいなと思っています。

土居市長 道が寸断すると都市機能というか、まちの機能すべて失われてしまうという、すごい恐怖を感じました。それ以降、インフラの整備に力を入れてきたところ



土居市長 市民と行政が協働する「新しい公」の考え方は、重要なカギとなっています。どうすれば住民やボランティアとの協働が進むか、道守活動も含めて、市長が考えられる具体的な施策や計画などあればお話しただけませんか？

土居市長 人口減少が進む中で、どうしても市役所の規模というのには小さくならざるを得ません。片方では広い面積の中で暮らす市民にとって、求める行政ニーズや市民のサービスニーズは高まるばかりです。これをどういうふうにしていくかということなんですが、やはり特に重要になるのは「新しい公」です。 行政と市民との協働、昔の言葉で言うと公民連携、これはとても重要になると考えています。私が市長に就任した時、市の最上位計画である総合計画がありませんでした。県下の自治体の中で竹田市だけが唯一策定しておらず、就任早々策定に着手いたしました。10年後の竹田市の未来像を市民とともに描こうと策定を進め、昨年度末に策定しました。

重要になるのが市民との関わりです。この総合計画策定過程において、市民のワークショップを地域それぞれの各地で開催しました。そして市民と一緒に10年後の未来を思い描いてきたところで、このようにさまざまな施策をこれから打っていくんですけれど

道守 みちづくし in 阿蘇 2022 実施報告

■主催：みちづくし in 阿蘇 2022 実行委員会

■共催：道守九州会議、国土交通省九州地方整備局、熊本県、阿蘇市、南阿蘇村、一般社団法人九州地域づくり協会

■後援：熊本県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県、熊本市、九州風景街道推進会議、九州・沖縄「道の駅」連絡会

◎この事業の一部は、(一社)九州地域づくり協会の助成金を受けて実施しました。



九州各県の道守が3年ぶりに大集結！

令和4年10月28日から10月29日の2日間にわたり熊本県阿蘇市で開催された「みちづくし in 阿蘇 2022」は、九州各県から419名の道守さんや関係者が阿蘇市に集結しました。

今回のみちづくしのテーマは、

阿蘇からのチャレンジ 復興九州 ～パワフルな風を届けよう～

平成28年に熊本地震で被災し、インフラ復旧が進み、復興にチャレンジする阿蘇の地で、活力ある、災害に強い九州実現のために道守活動がどのように貢献できるかを議論しました。



会場の様子

●主催者挨拶・来賓挨拶

道守九州会議代表世話人で実行委員長である榎木武の主催者挨拶から始まり、来賓の田嶋徹熊本県副知事、佐藤義興阿蘇市長、藤巻浩之九州地方整備局長より挨拶をいただきました。



榎木実行委員長



阿蘇市 佐藤市長

●功労者表彰・感謝状贈呈

長年にわたり道守活動を九州各地で続けられてきた8名・団体の道守さんが功労者として表彰され、また、道守活動に貢献・支援が認められる1団体に感謝状と記念品が道守九州会議榎木武代表世話人より手渡されました。



記念撮影

功労者表彰 受賞者

- ・道守ふくおか会議 吉本 保氏
- ・道守ふくおか会議 道守うきはネットワーク
- ・道守佐賀会議 吉浦 啓一郎氏
- ・道守長崎会議 牧 圭子氏
- ・道守くまもと会議 南小国町ボランティア行動隊
- ・道守大分会議 大分マリンパレス水族館「うみたまご」
- ・道守みやざき会議 株式会社 宮崎産業開発
- ・道守かごしま会議 坂口 るみ氏

感謝状 受賞者

- ・阿蘇の未知を考える女性の会

です。しかし、安心安全になったというところまではまだ道半ばというのが現状です。

令和4年の台風14号では、平成24年と同じ雨量を計測し、再び豪雨災害に見舞われました。しかしながら、治水ダムである玉来ダムのおかげで大惨事には至りませんでした。国道57号が土砂くずれで一時寸断するということが起こりました。やはり、災害に強い道が必要だということを改めて感じたところではあります。

ターミナル効果（観光客増や救急医療など）、大分・熊本との時間短縮などについて感じていることをお聞かせください。

土居市長 竹田市の基幹産業は農業ですが、これまでアクセスが不便だという理由でその他の産業が進出してこれなかった。そこにもあかりを灯す可能性をさらに秘めた道に躍進したと思います。経済の安全保障の道といわれる中九州の熊本と大分との中間地点である竹田市の役割が高まるばかりだと思っております。そこをチャンスと捉え、しっかりとまちづくりに生かしていきたい意欲があります。産業における道路の役割というのは人口増減につながる。そういう意味でこの道路を使って竹田市の人口増の役割が実現できれば、大きな地方創生につながる。

また、宮崎県との連携を進めたい。県道竹田五ヶ瀬線の改良を進めていかなければならないと思っておりますので、その辺は当然熊本県

や宮崎県に働きかけていきたいと思っております。

竹田市は本場に誇れる場所です。九州として世界に打って出るなら、このエリアは日本の中心的な歴史というものをもっています。世界の人たちがわざわざ遠くから来なくなる。彼らは日本の歴史の根深いものがあるところにお金をかけてきますし、高付加価値で地域との触れ合いができる、これからの持続可能な観光の未来を描くことができます。

道守も風景街道も地域が良くなるために活動をしています。道の駅も地域のために一生懸命やっています。3者揃っていると、3者の思いは一緒。人が寄りつきやすく、地域に還元できることは何なのかを一緒に考えていくのが「3つの輪」だと思っています。3者が色んなことを提案できる場を作りたい。

土居市長 はい。テーブルをまわすって意識疎通し、共有をして一緒に地域づくりに取り組んでいきたいと思っております。

みちづくし in 竹田では、道に対する共通項の中で、何か一緒にやっていける歩み寄りの場であり、次のステージに持っていけるような形になれば竹田市開催の意味があるのではないかと思います。

九州各地から参加される道守さんたちに歓迎のメッセージをお願いします。

土居市長 阿蘇のみちづくしで皆さんの活動を学ばせていただきま

プロフィール
どい・まさひろ 昭和44（1969）年5月7日生まれ。53歳。竹田市出身。大分県立竹田高等学校、大分大学経済学部卒業後、近畿日本ツーリストに就職。竹田市議会議員（2期）、大分県議会議員（4期）を歴任。令和2年、竹田市長選挙に初当選。現在1期目。

インタビュー
道守大分会議代表世話人 桑野和泉氏
道守大分会議世話人 堀幸子氏



した。行政区は違いますけども、地域は一体なんだと感じました。今回竹田市での開催です。道守の皆さんが集結をしてください。これをきっかけに竹田市も新しい地域づくりを取り組んでいきたいと考えています。もちろん皆様方にはその竹田市の熱い思いや元気を届けていきたいです。秋に竹田市でお待ちしております！

みちづくし in 竹田 2023

開催日 令和5年10月27日(金)、28日(土) 【1日目】交流会・交流集会
会場 竹田市総合文化ホール グランツたけた 【2日目】現地体験学習会
(大分県竹田市大字玉来1番地1)



- ▶車
大分市内から約60分
福岡市内=大分米良ICから約160分
阿蘇から約45分
高千穂から約90分
【グランツたけた駐車場 200台】
- ▶電車
JR豊後竹田駅から：徒歩20分、タクシー5分
- ▶バス
竹田市コミュニティバス・大野竹田バス「グランツたけた」下車すぐ

テーマは、「花咲くたけた～3つの輪～これまで、これから」です。今年で道守九州会議は20周年を迎える記念年です。発足当時の原点に立ち寄り、これまでの思い出を語りあい、これからの道守について考える機会になれば幸いです。

また、道守大分会議では前回大会で「3者連携」を大会宣言し、その後「3つの輪」を掲げ実践してきました。「みちづくし in 竹田2023」では連携することで、それぞれの地域の皆さんが元気になれるヒントを手に入れられるような意見交換ができればと思います。

3巡目の大分開催は、城下町・竹田市での開催です。水が豊かで、美味しいものもたくさん。2日目の現地体験学習会も充実しています。道守大分会議一同、皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

みちづくし in 阿蘇 2022 現地体験学習

2日目の現地体験学習は快晴のもと、137名の方々が参加。まず、4台のバスに搭乗し二つのコースに出発しました。

●やまなみ滝室坂コース

やまなみ滝室坂コースでは、阿蘇九重のやまなみハイウェイの景色を楽しみ、現在工事中の滝室坂トンネルの坑内では、工事方法の説明を受け、復興に寄与する未来の道路を見学しました。



道の駅「阿蘇」

工事方法の説明を受ける



今回の舞台となった、阿蘇エリアを説明するパンフレット全3編 (九州地域づくり協会作成)



トンネル坑内切羽での記念撮影

●南阿蘇インフラ復興コース

熊本地震で被災を受けたインフラを巡るコースは、交流の起点となる道の駅阿蘇を出発し、火山博物館で阿蘇の成り立ちを学び、震災ミュージアムでは、改めて熊本地震の記憶が蘇り、復旧された数鹿流崩れ、新阿蘇大橋、今後の防災に寄与する立野ダム工事現場では、規模の大きさに圧倒されました。



元東海大学キャンパス前での記念撮影



阿蘇草千里

被災概要の説明を聞く

数鹿流崩れ・新阿蘇大橋の施工説明

震災ミュージアムでは震災の大きな傷跡に驚いた

施工中の立野ダムの全景

立野ダム建設現場

●フロアミーティングへのアプローチ

道守九州会議の副代表世話人であり、九州大学教授の塚原健一氏が「平常時と災害時の地域の強靭性 —交通ネットワークの重要性と事例—」と題して基調講演を行っていただき、また、阿蘇からの報告として辻九州地方整備局統括防災官が「国土交通省が果たした役割」、秦阿蘇市観光課長が「熊本地震からの復興、行政の取り組みと住民の協力」と題して報告があった。



九州大学 塚原教授

●フロアミーティング

道守九州会議 副代表世話人の塚原健一氏をファシリテーターとして、前半は災害時や復興過程での道守活動事例を紹介し、後半ではこれからの道守や道の駅の果たす役割について議論を行いました。

最後に地域づくりや道守活動に精通された道守大分会議代表世話人の桑野和泉氏、道守くまもと会議世話人の阿南誠志氏のお二人にコメントを頂きました。



活動報告

桑野氏

阿南氏

●交流集会

交流会後、大庭照子さんコンサートと横堀岩戸神楽で郷土芸能を堪能したあと、佐藤阿蘇市長のアカペラで歓迎の挨拶があり、3年ぶりの交流集会を楽しみました。毎年恒例の道守屋台も復活し、各県自慢のお酒などが振る舞われ、参加者を楽しませていました。



大庭照子さんのミニコンサート

迫力ある横堀岩戸神楽

道守長崎のみなさん

元気な道守くまもと

●大会旗授与

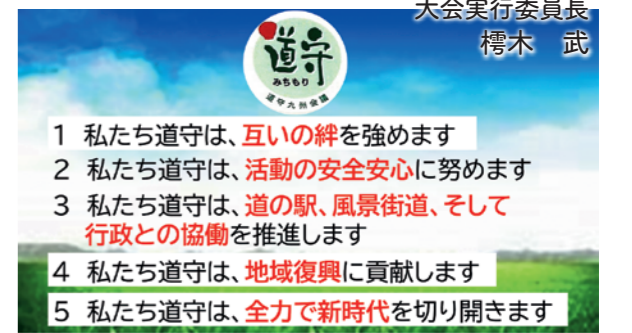
大会宣言を経て、最後に次回開催地へ大会旗を受け渡し、交流集会に幕を閉じました。

次回開催地は大分県の竹田市です。土居竹田市長から「荒城の月」をご披露いただき、開催に向けた力強いお言葉がありました。



大会宣言

みちづくし in 阿蘇 2022
大会実行委員長
標木 武





桜満開の宮崎県立阿波岐原森林公園パークウェイ

わたしの好きな道

感動が生まれるみち・記憶に残るみち

～宮崎県立阿波岐原森林公園パークウェイ～

ハワイが見えそうな日南海岸の「堀切峠」、秘境と建設時期が異なる三代の橋が一度に楽しめる「高千穂三代橋」、ジエームズ・ポンド気分でのドライブが出来る霧島山周辺の道路、ビートルズのレコードジャケットに似た雰囲気宮崎県庁前歩道など、宮崎にはドライブが楽しくなる趣のある道が数多くあります。

その中でも私がおススメする道は、シーガイア付近の黒松林を走り抜ける園路「宮崎県立阿波岐原森林公園パークウェイ」です。手入れが行き届いた園路沿いには、四季折々の草花やフェニックス並木・ヤシの木などが植えられ南国情緒たっぷりです。

園路沿いには、日本神話でイザナミノミコトがみそぎを行った場所と伝えられる「みそぎ池」がある公園や、祝詞の冒頭にその名が出てくる「江田神社」、某放送局で紹介されブームになっている「二葉稲荷神社」、年間を通して世界各地の植物が観賞できる「フローランテ宮崎」、フラミンゴのダンスが楽しめる「宮崎市フェニックス自然動物園」、等々、見どころも満載です。

我が家の子供達は宮崎市内で幼少期を過ごし、この園路沿いの施設でたくさん遊びました。そんな事もあり、6年ぶりに東京から宮崎に戻り子供達が先ず再訪を求めたのも動物園やアヒルと遊んだ「みそぎ池」でした。

園路沿いには他にも、ゴルフアワードの「フェニックスカントリークラブ」、G7宮崎農業大臣会合の会場「シーガイア コンベンションセンター」など、スポーツや会議・合宿などの施設までも豊富です。

さらに今年お目見えするのは、世界最大の屋内プール跡地に完成する「屋外型トレーニングセンター」です。サッカー・ラグビー・陸上競技等のトップアスリート等の合宿拠点として期待されており、この地での成果が、日本中の感動に繋がると期待しています。



■プロフィール
中島 隆志 (なかしま たかし)
宮崎県延岡市在住 (福岡県田川市出身)
パシフィックコンサルタンツ(株)宮崎事務所
所長補佐
道守みやまき会議 副代表世話人
宮崎県行財政改革懇談会委員(～令和4年度)

私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。

地域からの報告
福岡
道守みやまネットワーク

できる人ができる範囲で

令和5年2月10日、5団体・2企業が加入する「道守みやまネットワーク」が発足しました。

私たちにとって「道」とは、日々の暮らしに欠かせないものです。本団体では、「できる人が、できる範囲で」を合言葉に、無理のない範囲で楽しく活動を通じて、

徐々に地域に根付いていくことを目指していきます。

車の安全な走行と安全な歩行の確保は第一に求められており、道を綺麗にするという活動ひとつをとっても、その範囲は膨大で、行政の力だけでは難しくなりつつあります。

しかし、道守設立趣旨にもあるように「道はみんなの財産」という意識のもと、一人ひとりが、道の清掃や草取りなどできる範囲で活動することで、安全で安心な地域となり、その活動が輪となり、住民と行政の垣根を超えたネットワークが生まれることと思います。

この「道守みやまネットワーク」の発足を機に、「道」に関わる情報交換や交流、学習などの活動を通じてネットワークを形成し、今後の円滑な道路愛護や美化活動となり、環境保全など様々な地域社会の課題解決につながるよう、私たちは活動を続けていきます。

行政と市民が手をたずさえ「協働」で道を守る



間。地域を育てるみんなの財産。私達一人一人が「道」に対し出来る事を出来る範囲で自主的に実践して行こうと、この度正式発足した「道守みやまネットワーク」代表 河野理恵の想いを受けて、正式発足数年前から【道守KAWAKEN】として、「道」とは何だろうと考え、日々の暮らしに欠かせないものだが、古代から人々は、力を合わせ、道を作り、道を守り、道は暮らしを支え、産業を起し、文化を運び、人々を結び付けた。古代の道守の心を大切に、現在という新時代の暮らしの中から「道」を見つめ、道守の心を継承・発展し、次世代へ繋いで行こうと、道守活動を開始致しました。

みやま市は、国道209号・443号が通っており、国道208・209号の分岐点もみやま市にあります。私達は「道」と共に生活をし、「道」と共に経済を発展させ、「道」と共に成長しているのです。道をど



道守みやまネットワークの清掃活動・啓発活動。「私たちは道と共に暮らしている」

う守るかと考え私達に出来る事から始めようと、国道の清掃活動、国道208・209号の分岐点にての啓発活動、また3つの輪清掃活動参加にて他ボランティアとの交流等々を通じ、私達に、今出来る事を今実践し、みんなで協働し、道と人の新しい縁を作り出そうと願い「道守みやまネットワーク」の輪を広げ活動しております。

(道守みやまネットワーク事務局)

佐賀



道守佐賀会議 (佐賀市)

3年ぶりの「第17回佐賀城下ひなまつりおもてなし清掃」

コロナが猛威を振るう中、活動が思うように出来なかった3年間。このコロナ禍でも活動を後押ししてくれたのは、道守佐賀会議の世話人の皆様でした。

「佐賀城下ひなまつり」が開催されなくても、ひなまつり清掃を実施する」との世話人達の熱い思いを受け、3年ぶりに2月4日に開催することになった「佐賀城下ひなまつりおもてなし清掃活動」。開催までの日数がなく広報もあまりできず、不安の中で当日を迎えました。その日はお天気に恵まれ、まさに清掃活動日和！心配していた参加者数も150名と多く、子供連れの親子、企業の方々、「ゴミ拾いをしながら来た」といわれた一般参加者やボランティア団体。ごみを手に額に汗がひかり、全員無事ゴールに到着。清掃活動に参加してくれた皆様の笑顔に後押しされ、私たち世話人はホッとして笑みを浮かべ、実施して良かったと安堵しました。

ひなまつり会場周辺を3ルートに分け、それぞれ約2キロを清掃活動し、約80kgのゴミが集まりました。私一人ではできないけれど、参加者の笑顔に後押しされて元気をもらい、ネットワークが道のようにつながっていくこの活動が私は大好きです。

道守佐賀会議の自慢は、道守世話人、事務局と佐賀国道事務所、佐賀県、佐賀市など行政との協働で活動ができています。このことに喜びと感謝の思いで一杯です。

(代表世話人 三原ユキ江)



佐賀城下ひなまつりおもてなし清掃活動 スタート

長崎



道守長崎会議 佐世保・佐々地区 (佐世保市)

「愛宕市」におけるゴミ回収ボランティア活動

「愛宕市」とは佐世保市相浦地区で450年以上の歴史を誇る伝統的なお祭りです。相浦本通りが歩行者天国となつて、苗木や植木、竹細工、海産物などの露店が出店するほか、恒例となっている福袋付きシャモジ売りや飯盛神社参道駆け上がり大会といったイベントも3年ぶりに開催され、大勢の人でにぎわいます。道守長崎会議佐世保・佐々地区、及び、ながさきサンセットロード佐世保・佐々地域連絡協議会では、毎年、愛宕市で発生するゴミを回収するボランティア活動を実施しています。

長崎市方面から代表世話人、佐々世話人も参加され、歩行者天国に自家製ゴミ箱(可燃ごみ、不燃ごみ)を7箇所設置して、定期的に溜まったゴミを回収し、愛宕市が開催された2月25日、26日の2日間で合計110袋のゴミが集まりました。地域の方から「ゴミひとつないイベントでした」と感謝の言葉を頂き、参加したメンバーも気持ちよくお祭りを楽しめました。

(佐世保・佐々地区世話人 天島道夫)



道守とサンセットロードの連携



ゴミ回収中

熊本



草ヶ部女性の会 (阿蘇郡高森町)

美しい自然風景を後世に残す

高森町は「日本で最も美しい村」連合に加盟して草村町長を先頭に町内の清掃美化に活躍しています。

「草ヶ部婦人部」会長 甲斐いつみさんを訪ねました。

草ヶ部地区は宮崎県高千穂町に隣接する山間部です。日本に3つしかない下り神社「阿蘇吉見神社」があり棚田など自然の風景に癒されます。美しい自然風景を後世に残したいと女性部28名で活動しています。国道のゴミ拾いを毎年2回実施、各家庭では花を道路に植え込んだりプランターでもてなしをしています。また保育園、小・中学校にはプランターで育てた花を届けて子供たちから喜ばれています。これからは自然風景を大切にしながら田舎での景観維持に実践します。



美化活動を終えて

(道守くまもと会議世話人 阿南誠志)



高森東小学校へ花を贈呈

大分



西日本コンサルタント株式会社(大分市)

道守活動を通じて、地域貢献に寄与します

私たち西日本コンサルタント株式会社は、大分に本社を置き地域に根差したお仕事を(建設コンサルタント業・測量業・補償コンサルタント業・環境アセスメント等)させていただいております。

近年、多発する自然災害に備えながら、皆様の生活の安全・安心を守るために欠くことが出来ない社会インフラ整備に関わる建設コンサルタントやそれに伴う周辺の環境対策に十分に配慮し、地域住民や社会の意見に耳を傾けながら事業を進めています。

仕事をを行うにあたり、「誠意を持って事にあたり、技術を軸に社会に貢献する」という企業理念の基、「誰もが安全・安心で豊かに暮らせる社会・自然と調和した社会」の実現が私たちの使命であり、「社会の役に立つ」という事が社員の誇りであり、また一番の願いです。

その為、道守活動では別大マラソンの前日清掃・道の駅の日美化活動へ参加をさせていただき、微力ながら社会に貢献できるようにと動いています。

これからも、地域の方々に貢献し信頼される会社を目指す為にも道守活動への参加をさせていただきたいと思っております。

(道守大分会議事務局 江口元気)



別大毎日マラソン時、社員で道守活動に参加



高崎山のマスコット「たかもん」と一緒に記念撮影

宮崎



チームM。(宮崎市)

活動を通して、仲間とのつながりを

「チームM。」は2005年の結成以来、今年で18年目を迎えます。現在24社の市内民間業者を中心に、春と秋の植栽ボランティア(まちなかフラワーパーク)に参加しております。メンバーはそれぞれの得意性を活かして、ボランティア活動で活躍しています。

この「チームM。」の名前の由来は、発起人の方、前原さん、馬原さん(故人)2人の名前の頭文字のMからと、県都宮崎市のMからと、皆でまとまるという形で小さい丸を付けて「チームM。」となっております。18年前はイベントごとも多く、様々な活動に参加していました。当時は参加者の皆が若く、参加者の子供さん達もたくさん参加してくれて賑やかにボランティア活動をしていました。懐かしさ思い出します。ボランティア終了後のお菓子の日高さんからお菓子とお茶の提供に、子供たちがメチャクチャ喜んでいました。春と秋の2回の植栽ボランティアですが、春は宮崎国際音楽祭の開催前、そして秋は神武大祭前に、宮崎市の中心市街地の街路に四季それぞれの花を花壇に植え替えて、併せて道路清掃も行い、賑やかな街並みの創出のお手伝いをしています。

最近では、子供たちが参加する光景は見かけませんが、各企業さんから若い社員の方や外国人の技能実習生も来てくれたりと、国際色も豊かになってきています。

今後この活動を通して、地域貢献はもちろんですが、仲間との繋がりを大切にしていきたいと思っています。

(代表 児玉清和)



楽しく花植え

鹿児島



株式会社サタコンサルタンツ(鹿児島市)

魅力的な街づくりを目指して

株式会社サタコンサルタンツは、官公庁の発注する公共事業を主に、道路、河川をはじめとする様々な生活基盤と生産基盤の「計画」「測量」「設計」から社会インフラの「維持管理」までを行っている会社です。美化活動は、本社・曾於支店・霧島支店の3拠点で連携をとりながら本支店毎に年4回計12回ボランティア清掃活動を行っております。鹿児島市中心部に位置する本社では、国道3号線沿いの歩道の除草作業やゴミ拾いを行っています。夏は、歩道橋下に桜島の火山灰が多く溜まるため、克灰袋(桜島降灰専用のごみ袋)で回収も行っています。観光客の多い歩道であり美しい鹿児島島のイメージを与える一助となればと思いを活動を継続しています。

令和4年度は、鹿児島県道事務所より「道路環境の保全美化功労表彰」を受ける事ができました。ボランティアではあるが表彰を受けること今後の励みにもなります。更に地元の皆さまや鹿児島にいられた方々に喜んでいただけるよう定期的に行っていきたいです。

(総務営業課 村尾健太郎)



桜島の火山灰収集



清掃活動に参加した皆さん

2040年、道路の景色が変わる 人々の幸せにつながる道路

5つの道路の将来像（令和2年6月提言）

「2040年、道路の景色が変わる」、これは国土交通省が令和2年6月に社会資本整備審議会道路分科会基本政策部会の提言としてとりまとめた報告書のタイトルです。この提言は、ポストコロナの新しい生活様式や社会経済の改革も見据えながら、概ね20年後の日本社会を念頭に、道路政策を通じて目指す2040年の日本社会の姿と政策の方向性を示したもので、今後、「道路の景色」がどう変化するか、分かりやすいイラストで示しているものです。具体的には、「5つの道路の将来像」と道路行政が目指す「3つの社会の姿」、それぞれに対する「政策の方向性」で構成されています。



図1 実現を目指す3つの社会像(イラスト)

5つの道路の将来像

- ① 通勤帰宅ラッシュが消滅
- ② 公園のような道路に人が溢れる
- ③ 人・モノの移動が自動化・無人化
- ④ 店舗（サービス）の移動でまちが時々刻々と変化
- ⑤ 災害時に「被災する道路」から「救援する道路」に

3つの社会の姿

- ① 日本全国どこにいても、誰もが自由に移動、交流、社会参加できる社会
 - ② 世界と人・モノ・サービスが行き交うことで活力を生み出す社会
 - ③ 国土の災害脆弱性とインフラ老朽化を克服した安全に安心して暮らせる社会
- それぞれの実現に向けて、道路政策の方向性が大きく10項目のテーマに分けられており、各テーマに沿った検討が進められています。また、令和4年8月には、検討を進めてきた中で有識者の意見を踏まえ、当面の取り組みと今後のロードマップを示した「今、道路の景色を変えていく」2040年道路政策ビジョンへのロードマップ」を公表しています。
- 一例を紹介すると、提言では道路を人々が滞在し交流できる空間に回帰することが提示されており、それらを踏まえ、「ほこみち（歩行者利便増進道路）」制度の創設（令和2年11月）や路肩（カーブサイド）の柔軟な活用、さらには道路全断面で歩行者優先で通行できる道路の検討など、示された3つの社会実現に向けた道路施策の具体化が進められています。

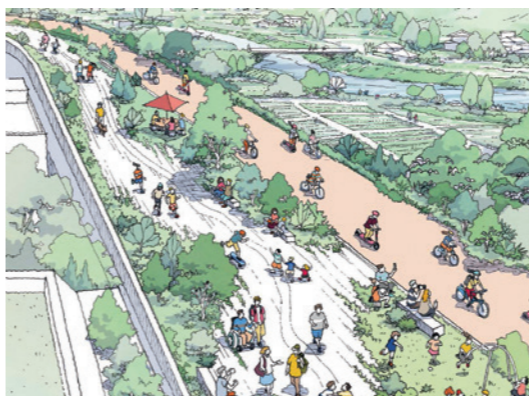


図2 公園のような道路



図3 道路の使われ方が変わる

歩行者利便増進道路（ほこみち）制度について

「歩きたくなるみち、居たくなるみちへ」

歩行者利便増進道路制度とは

「道路空間を街の活性化に活用したい」「歩道にカフェやベンチを置いてゆっくり滞在できる空間にしたい」など、道路への新しいニーズが高まっています。

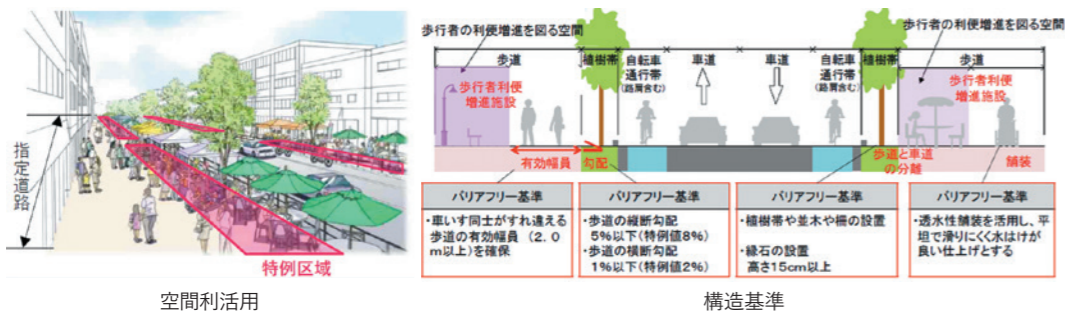
このような道路空間の構築を行いやすくするため、令和2年5月20日に成立した改正道路法等において、新たに「歩行者利便増進道路（通称…ほこみち）」制度が創設（令和2年11月25日）されました。

【制度の特徴】

〔構造基準に関すること〕
道路管理者が歩道の中に、『歩行者の利便増進を図る空間』を定めることができます。これにより、空間利用に関する関係者との調整が円滑に進むことが期待されます。

〔空間活用に関すること〕

特別区域を定めることで、道路空間を活用する際に必要となる道路占用許可が柔軟に認められます。道路管理者が道路空間を活用する者（占用者）を公募により選定することが可能になります。この場合には、最長20年の占用が可能となります（通常は5年）。



九州におけるほこみちの取り組み

令和3年12月20日、九州で初めて2市4路線でほこみちが指定されました。さらに、沿道の商店街や関係機関等からの要望や協議を経て、現在（令和5年3月末時点）は、9路線が指定されています。

■熊本県熊本市

- ・市道 手取本町新市街第1号線
 - ・市道 新市街下通2丁目第1号線
 - ・市道 水前寺公園第1号線
 - ・市道 東町1丁目画図東2丁目第1号線
 - ・市道 上通上林町第1号線
 - ・市道 花畑町安政町第1号線
- ### ■福岡県久留米市
- ・市道 六ツ門町D106号線
 - ・市道 東町D115号線
 - ・市道 東町D114号線

ほこみち指定による効果

熊本市、久留米市ともに、ほこみち指定をきっかけにして、テラス席やベンチ等を設置したゆっくりと滞在できる道路空間の構築や、地元商店街による定期的なイベント開催など、継続的に街の賑わいづくりに取り組まれており、民間事業者が道路をうまく活用していくという認識が広まりつつあります。

今後、さらに指定箇所が拡大することで、ほこみちにより道路からまちが変わっていく、街の活性化につながることを期待されます。



沿道飲食店の路上で乾杯(久留米市)



子供たちの遊び場になったほこみち指定箇所(熊本市)

九州風景街道の令和4年度の取り組み

5つのチャレンジ

九州で初の風景診断の実施

今年度、九州風景街道の初の取り組みとして、「島原半島うみやま街道」を舞台に風景診断を行いました。風景診断は、ルートのパートナーシップが主体となり、道路管理者や学識者と連携し、風景を地域資源として捉えなおすことで、地域活性化及び観光振興を目指すことを目的とした取り組みです。

現地において、風景の成り立ちや歴史について見つめ直すことで地域の魅力を発見・再確認し、現状の課題の解決、地域の持つ魅力のさらなる向上に向けた対策について意見交換会を行いました。

その結果、「島原半島うみやま街道」では、各箇所の特徴に応じた魅力の伝え方や整備方針について関係機関との協議を継続していくことが確認され、本年度は、展望台からの景色を阻害している看板の撤去・再設置に取り組みことが決定しました。



「島原半島うみやま街道」の風景診断

参加型イベント等の開催

九州風景街道では、現在、「認知度不足」、「後継者不足」等の課題を抱えており、令和4年度は、その解決策として「参加型イベントの開催」を推進してきました。その中で、地域が主体となり、多くの方に参加していただいた2つのルートの活動を紹介します。

①歴史を語る写真家と歩く世間遺産ツアー
大分県の別府湾を拠点に大分県内で広く活動を行っている「別府湾岸・国東半島海への道」は、ルート及び九州風景街道を各地域に浸透させることを目的に、「藤田洋三と歩く『世間遺産』」を開催しました。この活動では、ルート内の6市町それぞれの場所で、パートナーシップと市民がとも



「日本風景街道」は平成19年に発足し、九州風景街道の15ルートのうち10ルートが登録後10年以上経過しました。九州ルートの魅力は多種多様で、ルート毎に取り組みの内容や成熟度、課題等も様々な状況にあります。このような中、新型コロナウイルスを契機としたニューノーマルな社会に向け、「5つのチャレンジ」と称し、①広報内容の充実、②風景診断、③ほこみち活用推進、④多様な団体との連携、⑤参加型イベント等の開催を掲げ、令和4年度の活動に取り組んでまいりました。

にまち歩きを行い、参加者全員が日常の風景の魅力を発見・共有するとともに、皆で意見交換を行いました。この活動で参加者は、日常の風景や街道の素晴らしさ、写真の楽しさに気づき、大いに盛り上がりました。

②北九州風景街道フォト&スケッチコンテンツ
福岡県の北九州市を拠点に活動を行っている「北九州おもてなしの『ゆっくり街道』」は、SNS等を活用し、ルート及び九州風景街道を各地域に浸透させることを目的に、ルート内の風景やスポットを題材とした「フォト&スケッチコンテンツ」を開催しました。このイベントでは、応募方法や広報活動にSNS（インスタグラム）を活用することで、多くの方に参加していただき、多数の応募作品が寄せられました。



多様な団体との連携

九州風景街道では、さらなる活動の活性化を目指し、「道守」や「道の駅」等の団体と連携した活動を推進しています。各ルートにおいて、様々な活動を行っています。その中で、各団体と協力し、一般参加型のイベントを行った2つのルートの活動を紹介します。

①日本風景街道大学 宮崎本校開催

宮崎の日南海岸を拠点に活動を行っている「日南海岸きらめきライン」は、「道の駅」、「大学」等の団体と連携し、産学官が一体となった「第13回 日本風景街道大学 宮崎本校」を令和5年1月6日から8日の三日間にわたり、開催しました。



この取り組みでは、県内外からルートを盛り上げようと活発に活動を行っている方が参加し、講演や討論を通して、ルートの未来について考えるとともに、現地での清掃活動やサイクリングを通して、ルートのすばらしさを再認識しました。

②やまなみハイウェイ一斉清掃活動

阿蘇・九重エリアで活発に活動している「九州横断の道 やまなみハイウェイ」、「九州横断の道 阿蘇くまもと路」の2ルートが連携し、「道守」「道の駅」の各団体と協力し3つの輪として、一般参加型のイベントを開催しました。



この活動は、令和3年度から始めた取り組みで、阿蘇・九重をつなぐやまなみハイウェイの素晴らしい景色、美しい自然を保全するために一斉清掃を行い、清掃活動後に講演会や討論会を行うなど、清掃のみで終わらない内容が特徴となっています。

今年度は、前年度の取り組みの反響もあり、参加者が約200人となり、活動規模を大幅に拡大して行いました。今後も阿蘇・九重地域を愛する仲間とともに未来へ美しい自然を守っていきます。

薩摩よりみち風景街道

地域の魅力の積極的な発信で観光振興を推進

「薩摩よりみち風景街道」では風景街道の活動理念である地域活性化・観光振興について積極的に活動を進めています。令和4年度は、活動団体の協働により、地域の魅力の発信事業に取り組まれました。

具体的には、イベント企画に向け、地域資源（体験学習受け入れ地）の現場視察、観光客の受入れ体制を充実させるための研修会を行いました。その後、「薩摩よりみち風景街道」のルートのエリアの魅力をSNSで情報発信するためのSNS活用セミナーを実施しました。また、コロナ禍以降、実施しているオンラインセミナーも開催するなど、積極的な情報発信や後継者の育成につとめています。

セミナーにおいては、北海道の「釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ」とオンラインで意見交換を実施し、交流を通して、好事例を学び、地域資源を磨き合う取り組みを続けています。



地域の魅力発信

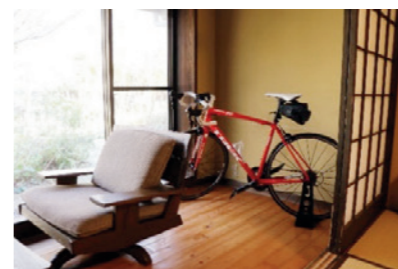
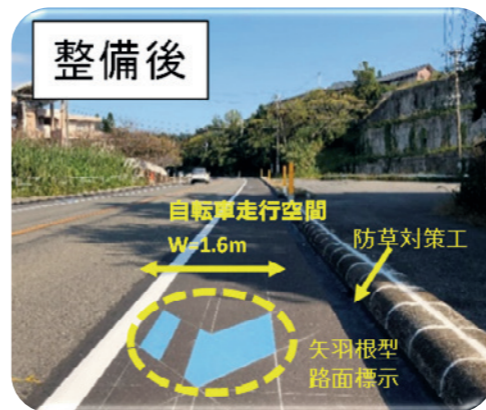


SNS活用セミナー

サイクルツーリズムを通じた
天草地域の賑わい創出と地域振興

「あまくさ風景街道」では、サイクルツーリズムを通じて、天草地域の賑わい創出と地域振興の促進を図る取り組みを推進しています。天草地域の特徴的な魅力的な地域資源を活かすため、官民が連携して、安全で走りやすいサイクリングロードの整備や自然・文化を満喫できるサイクリングイベントの開催などに取り組んでいます。具体的には、平成31年に天草地域サイクルツーリズム推進協議会を設立し、官民が連携して、自転車走行空間の確保や矢羽根・ピクトグラム等の整備を行っています。また、サイクル施設の整備としてサイクルステーションやレンタサイクルなどを推進し、天草を訪れる方々がサイクリングを安全に楽しめる環境整備を進めています。

天草オリジナル（スリット式）



客室内にサイクルスタンドを設置



海沿いを走るサイクリスト

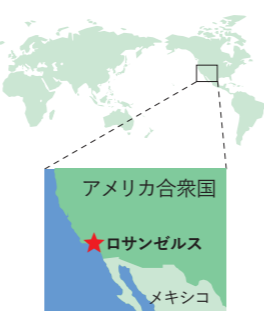


インバウンドにも対応

サイクルイベント
『AMAKUSAを走りきれ!2022』の開催

サイクルツーリズムを通じた天草地域の賑わい創出と地域振興の促進のため、2022年11月5日12月にサイクルイベント『AMAKUSAを走りきれ!2022』を開催しました。イベントは、スマートフォンアプリ「Strava」を用いて期間内の走行距離を競う「走る走るチャレンジ」や各コースを巡るデジタルスタンプラリー「まわるまわるチャレンジ」の2種類の内容で展開しました。イベント参加者への景品として、地元特産品を用意するなど、新たな顧客の拡大や地域振興につとめました。また、事務局の負担軽減等を図るため、記録者の作業負担や資料等の印刷費削減に向けて、スマートフォンアプリを活用するよう工夫しました。

海外道事情



ロサンゼルス

合理的に、柔軟に——
道路交通ルールの違いから学ぶ

「危ない、危ない、また間違った!」
ペーパードライバーだった私が、車無しでは生活できない米国ロサンゼルスに赴任し、免許取得以来は初めての運転かつ左

ハンドルで、交差点では対向車線側に入り、街なかでは一方通行の道を逆走したり、日本と異なる交通ルールを理解しておらずクラクション鳴らされたり。初めは相当苦労しましたが、日々の通勤に加え、ドライブ旅行（時には1日1400km以上）などの中で運転にも慣れ、その合理的で柔軟な道路の使い方や交通ルールにも魅了されるようになりました。そのいくつかを紹介させていただきます。

高速道路の車線運用や料金制度

ロサンゼルス周辺は、市街地が低密度で広範囲に広がっていることもあり高速道路網が発達していますが、片側5車線あってもピーク時間帯には激しい渋滞に巻き込まれます。そこで、渋滞緩和や大気汚染削減を目的として、主要なフリーウェイには、相乗りなどで規定人数以上が乗車している車のみ走行可能なHOV (High Occupancy Vehicle) レーンが設けられており、渋滞時でも比較的にスムーズに通行できますが、1人乗りの車がこのレーンを走ると高額な罰金が課されることとなります。さらに私の赴任期間中に、HOVレーンの一部区間では、1人乗りでも有料で利用できるExpressレーンの取り組みも始まりました。走行車は専用の車載器 (FASTRAK) を購入・装着した上で、乗車人数が規定数以上もしく

交通ルールの違い

米国では左ハンドルの右側通行なのは皆さんご存知のとおりですが、他にも日本と異なるルールとして、①赤信号でも右折は可能（信号の前で一時停止し、安全が確認できれば右折（日本でいえば左折）できる）、②踏切手前での一時停止は大型車両以外は不要（逆に停止すると追突される危険性も!）、③無信号交差点のストップサイン（全ての車が一時停止し、停止順に交差点内に進入する）などがあります。どれも安全性と効率性のバランスをどう考えるかということになりますが、我々が施策や取組を検討する上で、常識や思い込みを一度取り払うことの重要さに気付かされます。ロサンゼルスでは、2028年に3回目のオリンピック開催が予定されています。LRTなど都市鉄道がものすごい勢いで整備・延伸されているのに加え、空港アクセス改善のための専用軌道整備、シェアサイクル、シェアスクーター、Maas、自動運転な



バイソンの横断を待つ



スペースシャトルの運搬



プロフィール
仲谷 俊昭

国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所長。2012年(H24)4月から2015年(H27)3月まで在ロサンゼルス日本国総領事館で勤務。米国におけるインフラ政策の情報収集とともに、建設・鉄道・環境関連など日系企業のビジネス支援、映画・音楽関係者の進出・活動支援等を実施。

ど、今後の交通システムの変革にも注目していきたいところです。

道守たちのトピックス



WEBと対面の意見交換会



決定した「道路協力団体」のロゴマーク

(道守大分会議 事務局長 木ノ下結理)

ロゴマークや、全国の活動の様子は、新設された「道路協力団体」のホームページに記載されています。
<https://www.mlit.go.jp/road/kvoryokudantai/index.html>

■道路協力団体意見交換会

全国の仲間と意見交換 九州の道守活動が高評価

2022年12月6日に、国土交通省で開催された「道路協力団体意見交換会」みちを守り、育て、楽しむ」に参加しました。

北海道から沖縄まで、全国で道に関する活動をしている37団体が参加し、うち5団体が好事例として発表、九州からは、道守大分会議と日南海岸地域シーニックバイウエイ推進協議会が報告を行いました。共通して、高齢化にともなう人材不足は否めませんが、全国の方々との情報共有できたことが、今後の糧となり、交流・活力の源となりました。九州の道守活動は、全国でも評価・認知度が高く、大変誇りに思いました。

また、道路協力団体のロゴ選定会も同時に行われ、ロゴマークが決定しました。多数応募の中から、道守大分会議からも案を出しましたが、残念ながら2位でした。



「道守九州会議」設立総会



情報誌 道守通信

■道守活動20年目を迎えて

道守九州会議は令和5年2月で発足20年目を迎えました。今年開催予定の「みちづくしin竹田」はその記念大会となり、より意義のある大会にしたいと思えます。毎号、お届けしている「道守通信」の冒頭、設立趣旨を掲げています。

「道守の由来は、遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渇きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し、道と人の新しい縁を紡ぐ」と。

その道守精神は20年を経て、変わることなく、ますます強固になっています。

発足に当たって、記念短歌を全国募集しました。その最優秀作品は

この道をせんねんまえ歩いてきた
 ひとつも見たかも知れない夕陽

(東京都 森川 有)

花壇づくり、清掃活動の手を休め、ふと、顔を上げるとそこに大きな夕陽。万葉の昔も道行く人が眺

バラの植栽で 地域の世代間交流深まる

道守かごしま会議 副代表世話人
肥田眞八郎さん

道守活動のきっかけは、バラの町鹿屋を盛り上げたといった気持ちからです。

平成14年に大隅河川国道事務所から、鹿屋BPの4車線化に伴う緑地帯の植栽管理の誘いがあり、札元商工親睦等で話し合いを持ち道路美化活動に参加することになりました。国道220号線の緑地帯に、バラ500株を延長330mに渡って植え、美化清掃活動を行ったのが始まりです。現在鹿屋市、町内会会員及び沿線企業等の全面的な協力を頂き活動を継続しています。

作業にあたり、毎回町内会放送で道路美化活動への参加を呼びかけ50名程度参加が有ります。作業は、除草刈込、肥料散布、剪定等で、冬場は除き月1回、早朝7時から1時間程度実施しています。

本活動により、バラの維持管理、清掃活動が進み綺麗なバラの花が咲くことで地域住民、ドライバーなどの道路利用者の方にも喜んでもらっています。

また、沿道事業者や地元自治体も一緒に活動していることから、小学生等の家族ぐるみでの参加者も年々増えてきており、地域での世代間交流・親睦も深まってきていると感じています。



清掃活動にご協力いただいた皆様と



バラ除草作業



肥田さん

めたかもしれない、と。

道は、つながってこそ道になる。この当たり前のことを痛切に感じさせたのが、昨年、阿蘇で開かれた「みちづくし」でした。熊本地震によって国道57号が寸断され、阿蘇のシンボル、赤い「阿蘇大橋」が崩れ落ち、阿蘇への道が閉ざされてしまいました。九州一の観光地・阿蘇への道が失われたことにより、観光地・阿蘇の地域経済は落ち込み、日常の暮らしも、病院通いにも不自由することになりました。国土交通省の復興事務所は厳しい条件を乗り越えて、新阿蘇大橋を架け替えて「完全復旧」させました。阿蘇への道は蘇ったのです。完全復旧の姿を「みちづくし」現地体験学習で見ることが出来ました。

今回の「みちづくし」は大分県・竹田市ですが、竹田市は、熊本地震で道を失った阿蘇救援の「基地」となりました。しかも、阿蘇での「みちづくし」は「連携」がテーマでした。

道守活動は、風景街道や道の駅との連携「3つの輪」を進めてきており、約200人が参加した「やまなみハイウェイ」の清掃には、大分、熊本両県だけでなく九州の道守さんが参加しました。道守仲間の連携は大きくすすんでいるのです。

20年目となった現在でも道守活動が、順調に続いてきたのは、何よりも道守の皆さんの「みち」への熱い思いの賜物と痛感しています。ここ数年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、活動が規制されましたが、道守さんたちのパワーは衰えず、ひたすら活動に邁進され、ますます活発になっていくように思われます。特に花植を実施されている団体は、花たちの成長を楽しみ、手入れを日々欠かさず、地域のみなさんに癒しを届けています。コロナ禍での何よりの安らぎをもたらしたことでしょう。結果として、地域の皆さんも参加しやすくなり、道守ボランティア活動の輪が少しずつ広がっており、とてもうれしい限りです。

～道守を支援いただいている賛助会員の皆様(団体・企業)～

※順不同

一般社団法人 九州地域づくり協会	九州国道協会	一般社団法人 日本道路建設業協会 九州支部
一般社団法人 プレストレスト・コンクリート建設業協会 九州支部	一般社団法人 大分県建設業協会	一般社団法人 佐賀県建設業協会
一般社団法人 鹿児島県建設業協会	一般社団法人 熊本県建設業協会	一般社団法人 長崎県建設業協会
一般社団法人 福岡県建設業協会	一般社団法人 宮崎県建設業協会	大分県道路利用者会議
株式会社大林組 九州支店	鹿児島県道路利用者協議会	鹿島建設株式会社 九州支店
九州電力株式会社	熊本県道路利用者協会	建設サービス株式会社
佐賀県道路愛護協会	清水建設株式会社 九州支店	大成建設株式会社 九州支店
長崎県道路協会	長幸建設株式会社	西日本高速道路株式会社 九州支社
日新興業株式会社	福岡北九州高速道路公社	福岡県道路協会
福岡市道路利用者会議	宮崎県道路利用者協議会	株式会社九州建設マネジメントセンター
九州技術支援協議会	株式会社熊谷組 九州支店	西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
西日本高速道路メンテナンス九州株式会社	阪神高速技術株式会社	NTTインフラネット株式会社 福岡支店
小田開発工業株式会社	サンコーコンサルタント株式会社 九州支社	日本振興株式会社 九州支店
アイレック技建株式会社 九州支店	朝日開発コンサルタンツ株式会社	旭建設株式会社
朝日工業テクノス株式会社	朝日テクノ株式会社	株式会社アジア技術コンサルタンツ
株式会社アップス	株式会社安藤・間 九州支店	いであ株式会社 九州支店
鳥城塗装工業株式会社	株式会社エイト日本技術開発 九州支社	株式会社エスイー 九州支店
株式会社エンジニアプランニング	扇精光コンサルタンツ株式会社	大分瓦斯株式会社
大分県建設業協会 大分支部	大分県道路舗装協会	大分交通株式会社
株式会社大島造船所 九州営業所	株式会社岡崎組 勝盛會	株式会社荻島組
株式会社オリエンタルコンサルタンツ 九州支店	株式会社ガイアート 九州支店	鹿児島土木設計株式会社
株式会社柏木興産	株式会社片平新日本技研 福岡支店	上内電気株式会社
川田建設株式会社 九州支店	株式会社カンドー 九州支店	九建設株式会社
株式会社九州開発エンジニアリング	九州環境管理株式会社	九州建設コンサルタント株式会社
九州地区道路利用者会議	九州みちの会	協同エンジニアリング株式会社
株式会社橋梁コンサルタント 西日本支社	一般財団法人 橋梁調査会	株式会社建設環境研究所 九州支社
株式会社建設技術研究所 九州支社	株式会社建設技術コンサルタンツ	株式会社建設技術センター
一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 九州支部	株式会社鴻池組 九州支店	株式会社国土開発コンサルタンツ
株式会社コバルト技建	株式会社駒井ハルテック 九州営業所	西部ガス株式会社
一般社団法人 佐賀県土づくりコンサルタンツ協会	株式会社サタコンサルタンツ	株式会社島田設計コンサルタント
株式会社ジャストエンジニアリング	新成建設株式会社	株式会社新日本技術コンサルタント
株式会社親和コンサルタント	株式会社末宗組	株式会社西部技建コンサルタント
株式会社センコー企画	株式会社総合技術コンサルタント 九州支店	株式会社そよかぜ館(「道の駅大和」)
大日本コンサルタント株式会社 九州支社	大福コンサルタント株式会社	太陽技術コンサルタント株式会社
株式会社高山組	瀧上工業株式会社	多久市そうじの会(多久の未来を創る会)
宅島建設株式会社	谷川建設工業株式会社	株式会社玉の湯
株式会社地域科学研究所	中央コンサルタンツ株式会社 福岡支店	中央復建コンサルタンツ株式会社
株式会社長大 福岡支社	株式会社長大テック 福岡支店	通信土木コンサルタント株式会社 九州支店
株式会社東亜コンサルタント	東急建設株式会社 九州支店	株式会社東京建設コンサルタント 九州支社
株式会社東豊開発コンサルタント	東洋技術株式会社	戸田建設株式会社 九州支店
株式会社友岡組	株式会社友岡建設	株式会社名村造船所 福岡営業所
南生建設株式会社	株式会社西海建設	株式会社西九州道路
株式会社西田技術開発コンサルタント	西日本技術開発株式会社	西日本建技株式会社
西日本コンサルタント株式会社	西日本コントラクト株式会社	株式会社日建コンサルタント
日鉄鉱山コンサルタント株式会社 福岡支店	日本乾溜工業株式会社	日本軌道工業株式会社
日本工営株式会社 福岡支店	日本地研株式会社	株式会社野村建設
葉隠会道守部会	株式会社萩原技研	パシフィックコンサルタンツ株式会社 九州支社
株式会社ピーエス三菱	株式会社東九州コンサルタント	株式会社日高本店
福地建設株式会社	株式会社福山コンサルタント	株式会社富士設計
株式会社ぶぜん街づくり会社(「道の駅」豊前おこしかけ)	復建調査設計株式会社 九州支社	前田建設工業株式会社 九州支店
松尾建設株式会社	松本技術コンサルタント株式会社	株式会社丸福建設
株式会社水野建設コンサルタント	みちを考える会	宮崎空港ビル株式会社
株式会社宮崎産業開発	宮地エンジニアリング株式会社 福岡営業所	村本建設株式会社 九州支店
八千代エンジニアリング株式会社 九州支店	株式会社ヤマウ	株式会社ヤマックス
有限会社測量企画センター	有限会社道の駅みえ	株式会社横河ブリッジ 福岡営業所
利光建設工業株式会社	龍南建設株式会社	株式会社安部日鋼工業 九州支店
コーアツ工業株式会社	昭和コンクリート工業株式会社 九州支店	株式会社富士ピー・エス
NTTインフラネット株式会社 熊本支店	NTTインフラネット株式会社 鹿児島支店	株式会社エスケイエンジニアリング
JR九州コンサルタンツ株式会社	株式会社三原建築設計事務所	第一生命保険株式会社 佐賀支社
	個人会員64名	

「道守九州会議」事務局



発行 「道守九州会議」

広報誌「道守通信」春号
令和5年5月発行

■道守支援室(九州地方整備局道路管理課内)

〒812-0013 福岡市博多区博多駅前2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

■(一社)九州建設技術管理協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/> e-mail michi-kima@kyugikyo.or.jp